

日本銀行  
大阪支店

資料



25年3月7日

# 日本銀行大阪支店の 防災に関する取組みについて

---

日本銀行大阪支店

# 内 容

- I. 日本銀行大阪支店の機能  
-- お札の流通、決済、BCP、金融機関経営  
のモニタリング
  
- II. 日銀大阪支店のBCP機能

## I. 日銀大阪支店の機能

□ 現金の引出、受入、金融機関経由の流通

——西日本の母店

□ 金融機関の預金、決済、政府の預金

——送金・決済の流れ

⇒これが止まったら？

——金融機関の経営のモニタリング

□ 本店の代替 Business Continuity Planning

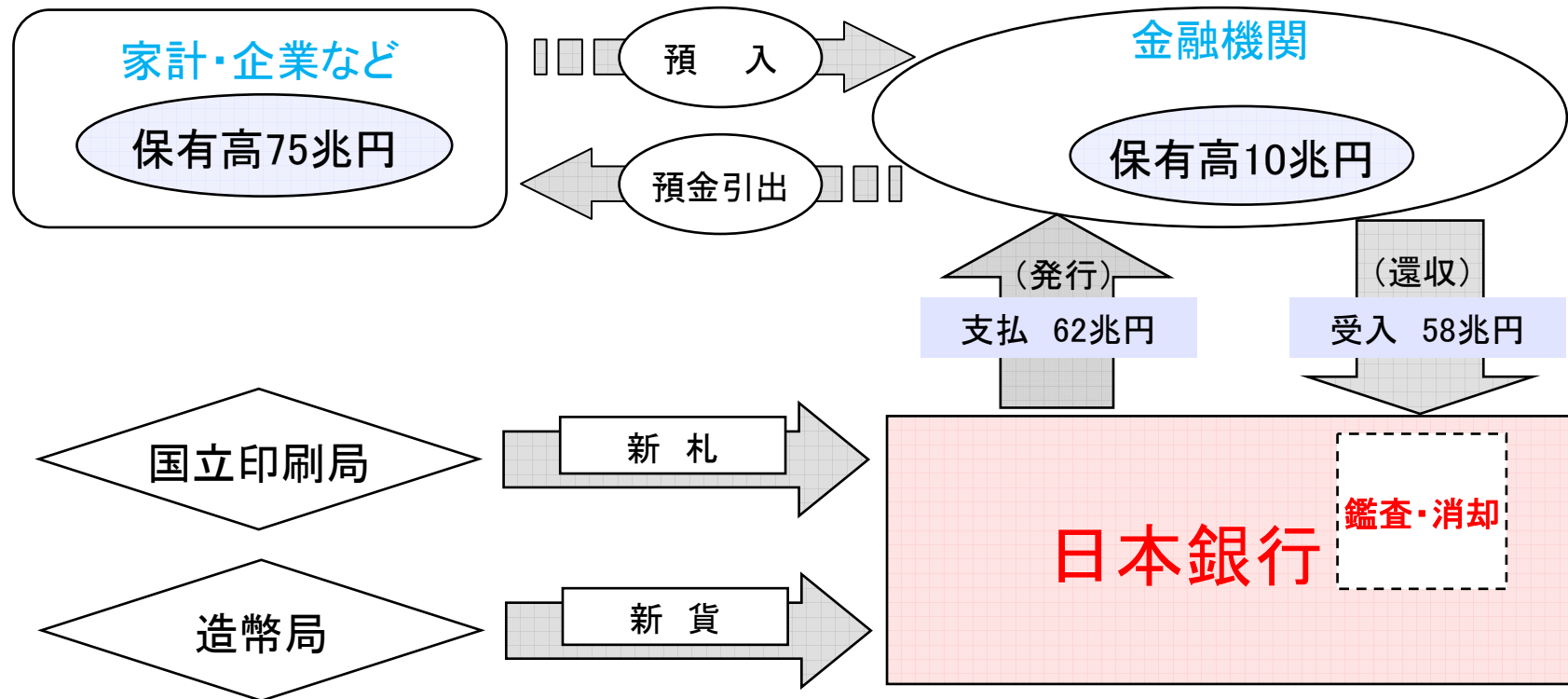
——役員(理事)が支店長の唯一の支店

——バックアップセンター

# お金の発行・流通の仕組み

## 流通高85兆円

(うち日本銀行券81兆円)



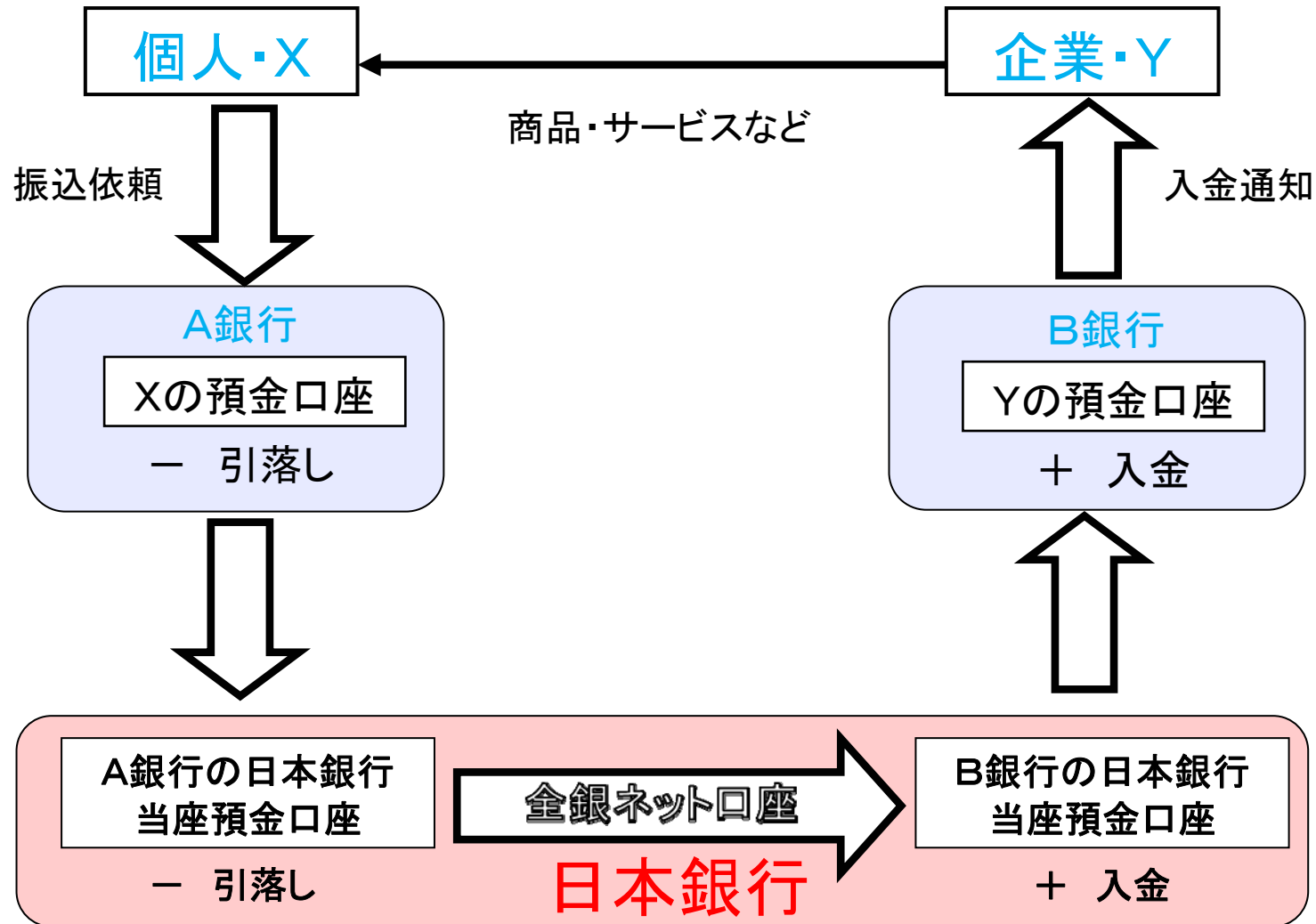
(注1) 図中の計数は2010年中もしくは2011年3月末時点。

(注2) 流通高および保有高には貨幣も含む。

## 主要国の偽造券枚数の比較（2009年）

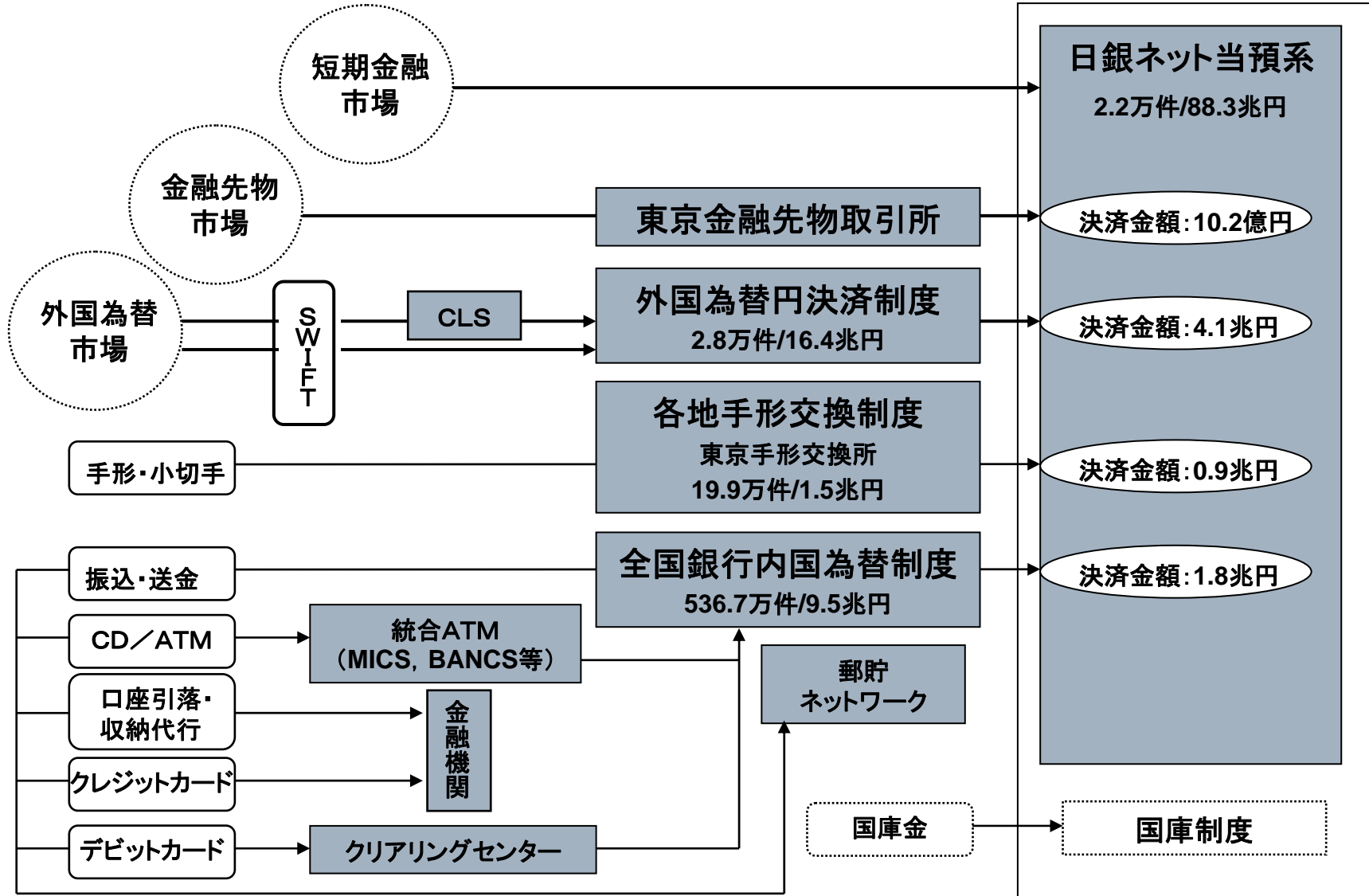
	アメリカ	イギリス	ヨーロッパ	カナダ	日本
偽造券枚数 （万枚）	—	56.6	86.0	7.0	0.3
流通銀行券 100万枚当たり の偽造券枚数 （枚）	100	207	63	38	0.3

# 日本銀行当座預金による資金決済の例





# 資金の決済システムの鳥瞰

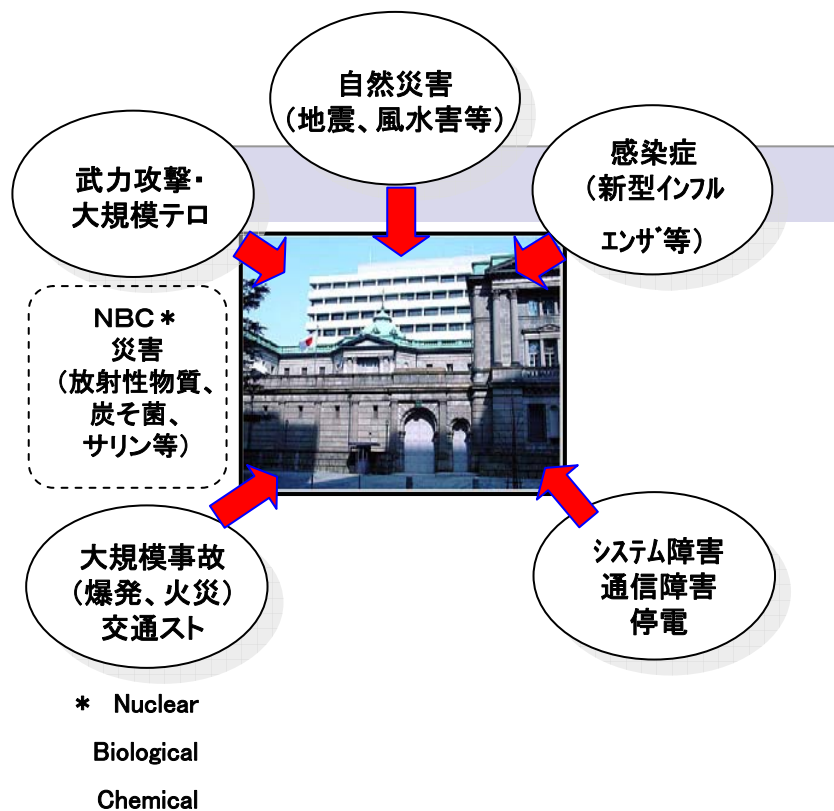


(注) 計数は05年中の1営業日平均。断りのない限り、取扱件数・金額を表す(次頁も同じ) 6

# 日本銀行のBCP(業務継続)対応

様々な想定脅威に対し主要拠点や役職員の機能の毀損度に応じた被災想定を設定、業務継続手段を整備。

(図表1) 想定脅威



(図表2) 被災想定/業務継続手段

主な被災想定	主要拠点		業務継続手段
	日本橋本店	府中センター	
① システムセンター(府中)の機能不全	○	×	・システムを大阪バックアップセンター等に切替え
② 本店(日本橋)の機能不全	×	○	・本店以外の場所で必要不可欠な業務を継続
③ システムセンター・本店ともに機能不全	×	×	・システムを大阪バックアップセンターに切替え ・本部機能の一部を大阪支店で代行
④ 役職員が出勤困難	○	○	・業務継続要員が対応または交替制勤務等を長期間継続する体制に移行

(注1) ×は、完全な機能不全の他、一部機能不全等、様々なケースを含む。

(注2) ③には、広域被災で東阪間通信途絶のケースを含む。

(注3) ①～③には、業務継続要員が対応するケースを含む。

## 日本銀行の業務継続体制②

### (例) 被災想定③のうち特に大規模な「広域被災」のケース

- 本店周辺と大阪との間で2日間程度連絡が全く取れない相当厳しい想定を置き、体制を整備
- 電算センターをバックアップセンターに切替えるとともに、本部機能の一部を大阪に移管

#### ■本店で継続する業務

- ・被災地における当面の国民生活を支えるために継続するもの

(具体例)

- ①現金の支払、損傷通貨の引換
- ②当座預金の受払事務、貸付関係事務
- ③決済システムのモニタリング
- ④金融特別措置の発動要請

財務事務所長(または財務局長)との連名で金融機関に要請。要請する主な措置は、①預貯金払戻しや融資への便宜措置、休日営業への配慮等のほか、②損傷銀行券の引換え、③紛失国債の相談受付など

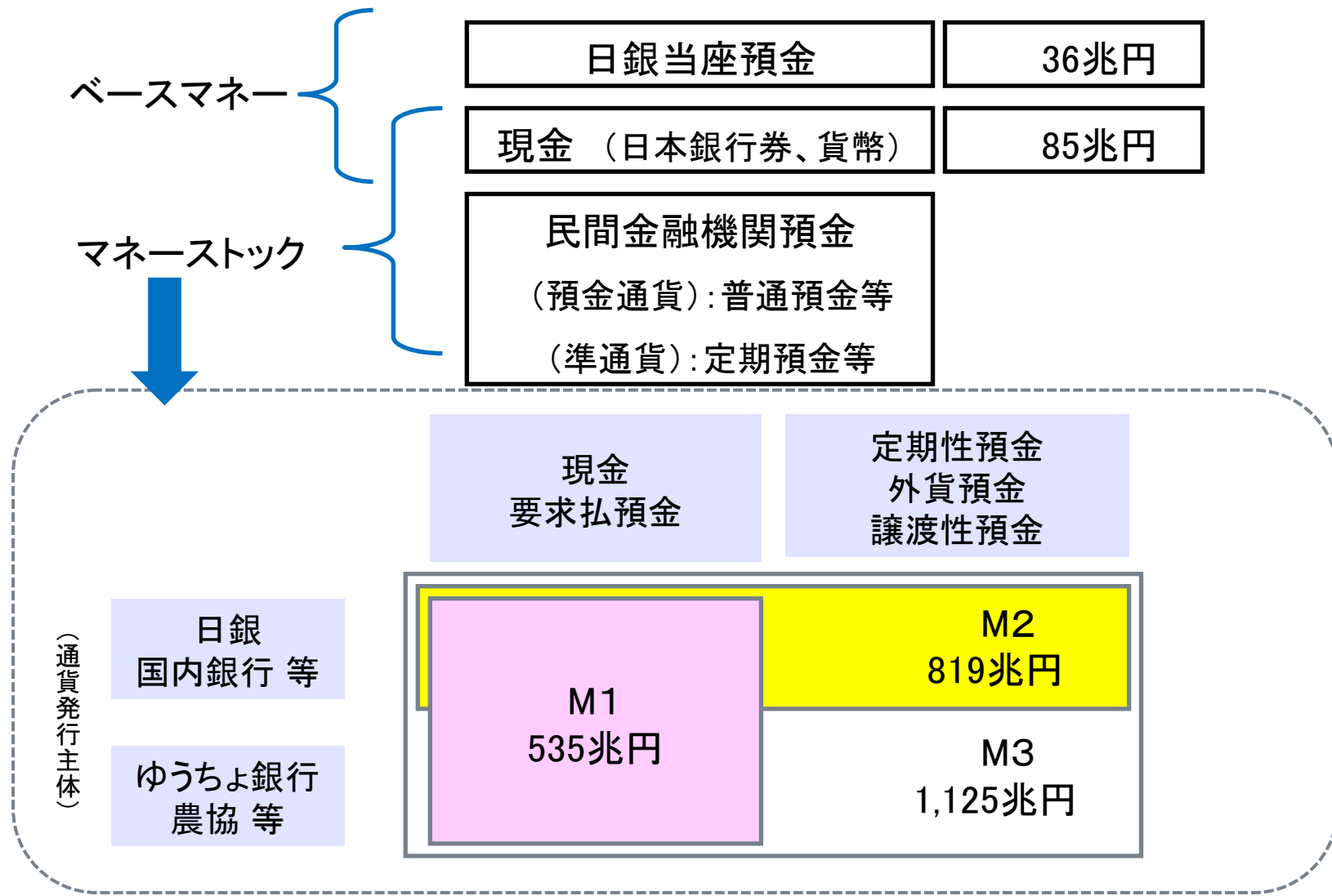
#### ■大阪に本部機能に移管したうえで継続する業務

- ・被災地以外の地域における決済の安定性を極力確保するために継続するもの

(具体例)

- ①日銀ネットの運行継続に関する業務
- ②取引の結了に関する業務
- ③貸付関係事務
- ④海外中央銀行等との連絡・調整に関する事務

# お金の種類



(注) 金額は2012年6月。

(資料) 日本銀行



